

KSKS

No.131

24.6.27

ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5
TEL/FAX 0742-41-6039
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円
年間 300円

◆法人からの報告 「居場所機能はどこに？」 理事 田岡 めぐみ … 1	◆Reports さわやぎ … 5 就労こもれび … 5 生活訓練こもれび … 6
◆News ◇NPOあず 生活介護がB型に … 2	◆Thanks 後援会費納入者 … 6
◆Reports ◇まほろば会総会 記念講演 … 3 ◇第33回こころの講演会 … 4	

居場所機能はどこに？ ～新たな「縛り」の中で～

雨が降れば土砂降りが続き、晴ればカンカン照り、そんな近年です。今年はどうなるのか恐ろしくなります。

5月22日(水)、2024年度第1回理事会が行なわれました。以下の内容について承認されました。

- ・事業経過報告
- ・2023年度第2回補正予算(案)
- ・監事監査報告
- ・2023年度決算報告(案)
- ・2023年度事業活動総括
- ・多機能さわやぎ事業形態変更
- ・生活介護、就労継続B型の運営規程変更(案)
- ・在宅勤務に関する規程について

生活介護のさわやぎと就労継続支援B型のきらく舎は、一つの多機能事業所として運営してきました。2024年度の法改正で、生活介護は利用時間によって報酬単位が変わることになりました。ゆいの会は、精神障がい者の特性や病状の変化で長時間利用することが難しい利用者が多く、この改正でさわやぎは収入が大きく減りました。これまでも何度か生活介護事業をどうしていくか、という話はありませんでしたが、こ

れを機に変更することにしました。

さわやぎは、さをり織りや昼食作り、様々なプログラム活動など、ゆったりと自分のペースで取り組める作業や活動が中心で、居場所としての機能を果たしていました。活動内容は今まで通りのまま、7月から就労継続支援B型に変更されます。

「自立支援」「利用者本位」「社会保険方式」の理念のもと、住み慣れた町で自分らしく暮らすことを目的に2000年には介護保険制度、2004年には精神障害者居宅介護事業(ホームヘルプ)が始まりました。ゆいの会の法人化は2002年でした。

制度が整備されると、施設は機能分化していき「縛り」が生まれました。「縛り」の中で活動し、「縛り」に追いまわられて苦しさを感ずるこの頃、皆が幸せになるのだろうか、孤立はなくなったのか、本当は何を目指して活動をしてきたのだろうか、もう一度考えなくてはならない時が来ていると思います。

(田岡めぐみ)



News

報酬改定で試行錯誤 NPOあず「リベルテ」 生活介護⇒就B型

NPO法人あず(奈良市西大寺赤田町)の多機能事業所(生活介護・就労継続支援B型事業)「リベルテ」が、2024年4月から2つの就労継続支援B型事業に移行し、場所や活動が一部変更しています。事業所長の田村亮子さんに、変更後の活動や今後目指すことについて話を聞きました。

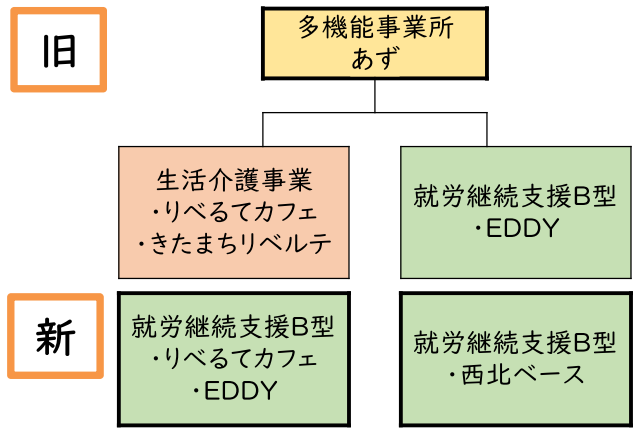
移行を決めたのは、2024年4月の法改正により、生活介護事業の報酬が利用時間に応じて支払われることになり、体調や緊張感によって長時間いることが難しい精神障がい者を対象とする事業所にとっては減収となることが予想されたからです。1月から利用者への説明や改修工事などの準備を進めて、4月から新しい形で活動しています。

中でも西大寺北町の長屋を借りていた「きたまちリベルテ」は、ゆったり過ごしたい人が多く利用していましたが、「西北(さいきた)ベース」としてあず本部の1階に移転し、お弁当の製造作業を始めると、大きな変化がありました。

吉田病院内で軽食と喫茶を提供していた「リベルテカフェ」は、テイクアウトができる総菜パンとコーヒーのお店に変わりました。病院内の元々使っていた厨房で製造し、以前「あらくさカフェ」(あらくさ家族会が運営)があった、外から来た人も入りやすい場所で販売しています。

制度の狭間で利用できない人も

移行から2カ月がたちますが、体調や利用目的も様々で、作業のとらえ方や関わり方もいろいろな人がいる中で、試行錯誤が続きます。作業内容や



能力で工賃に差をつけるのかどうかは、多くのB型事業所が頭を悩ませる部分です。生活介護を利用していた人の中には、B型を利用する条件の「就労経験がある」の部分がクリアできずに、正式利用がかなわない人も数人います。中高生時代から引きこもり、発病した人の中には、一度も就労経験がなく、パートなどで働くにもハードルが高くてできない人も当然いて、改めて今の制度が精神障がいの特性に配慮されていないことが浮き彫りになっています。そもそも、生活介護の報酬引き下げなど居場所的な事業の運営がどんどん厳しい状況に追い込まれている事が問題で、国の方向性への危機感も強く感じています。



写真はおかしコッペ。たまごコッペ、日替わりのおそうざいバーガーもある

地域とのつながりを作るためには

今後の課題は、「地域の中でどんな役割を果たすのか、地域にどう貢献できるかを考えていくこと」だと言います。

これまでも近くの西大寺北小学校の下校の見守りや、体験学習の受け入れ、月に1度、地域の高齢者の集まりに場所を提供するなど、地域との交流をしてきました。多職種との情報交換の場「ヘリコプター会議」(市社会福祉協議会主催)などにも参加して地域課題を拾い上げるための活動もしています。

子ども食堂? お年寄りの訪問? 利用者さんたちと一緒にどんな活動ができていくのか、これからの活躍にも注目していきたいです。(六十谷尚美)



グループホームの夕食を作って届けます

当事者のひとり暮らし

奈良県精神障害者家族会連合会(まほろば会)の定期総会が5月19日(日)にありました。記念講演では『当事者のひとり暮らし』をテーマに、障がいのある当事者3人が刀根治久さん(生活支援センターたむたむ荘施設長)のコーディネートのもと座談会形式で経験を話しました。

▼ひとり暮らしのきっかけ

Tさんはなかなか家族が出してくれず、22年間入院していましたが、主治医が家族を説得してくれて退院しました。宿泊型生活訓練事業所「サポートセンター夢」(以下、SC夢)を利用することになってからはトントン拍子に話が進み、料理が作りたくてひとり暮らしを始め、もう7~8年になります。

Sさんは母が亡くなり27歳頃にひとり暮らしに。20代前半から引きこもりがちで、家事もできず、当時は診断も受けていませんでした。昼夜逆転の生活で精神的に消耗し、生活に行き詰まり、親戚が病院に連れて行ってくれました。1年間の入院の後、家に戻ると同じことになると思い、主治医に紹介してもらったSC夢で2年半。ひとり暮らし後も入院、転居を経て今の家には8~9年住んでいます。

Mさんは計5回入退院を繰り返し、祖母と2人暮らしだったが亡くなってからひとり暮らしに。

▼SC夢では

Tさんは主に料理を教わりノートやファイルがいっぱいになりました。生活のことや流れを勉強するために色んなイベントにも参加し、生活しながら「どういう風にしたらいいのかな」と自分の暮らしを考えること学んだといいます。

Mさんは金銭管理に社会福祉協議会の事業を利用し、SC夢では1週間分のお金を用途別に分けたり、買い物リスト作りを手伝ってもらいました。

Sさんは担当スタッフとの定期面談で生活上の課題を確認したり、「してみたいこと」を考えてひとり暮らしの準備をしたそうです。外出や移動が苦手なので大阪のセミナーにスタッフに付いてきてもらうこともありました。

▼どんな支援を利用している?

Mさんは週1回の訪問看護で薬の飲み忘れがないかと体調の確認をしてもらっています。

Sさんは訪問看護のほか、ヘルパーは週2回、料理と掃除。ショートステイは家で落ち着いて寝れない時、今は診察前に緊張で疲れるので3泊4日くらいで利用しています。

▼質疑応答

Q:ひとり暮らしのハードルを高く感じる人もいるが『これができなくても大丈夫』ということはあるか?

A1:近所迷惑にならなければ掃除ができなくても、ゴミ出しを忘れても大丈夫。昔はできない自分を許せなかったが、徐々に苦手なことを『受け入れないと仕方ない』と、自分を追い詰めなくなった。

A2:料理はできなくても、レトルトを食べてもいい。

Q:周りからするとできていないことを本人が「できる」と言い、支援者のことも受け入れない。支援を受け入れたきっかけは?

A1:最初は人が来るのが怖かった。話をして『信用できるな』と思ってから入ってもらっている。

A2:どうしてもできないときに「やっぱり支援が必要な」と思った。それに賭けてもいいのでは。

A3:世間話等ちょっとしたことから人となりを知って「この人なら」と思えれば、本人がどう思っているかが大事で、そこは本人が決めるところ。



3人とも長年ひとり暮らしをしていますが、体調が不安定になることもあるそうです。そんなときは「薬を飲んで睡眠とったら不思議と治っている」「何もせずに布団にこもって、重いときは2~3日横になっている。食事水だけになる時もある」「外出先から帰宅できない・帰ってからしんどくなることもあった。そういう時にWRAP(※)を見たら『寝たらいい』とあったので、寝たら元気に。最近WRAPで解決するようにしている」とのことです。※WRAP:「元気回復行動プラン」アメリカで始まった精神的な困難を抱えた人たちが自分らしくあり続けるため知恵や工夫を蓄積して作る自分で作る自分のためのリカバリープラン (河田友見子)